

ま え が き

ベトナム経済が1990年代後半の低迷から脱し目覚ましい成長を続けていく中で、日本では直接投資先としての、あるいは潜在的市場としてのベトナムの魅力に注目が集まるようになる。それにともない、ベトナムに関する研究も数多く発表されるようになった。アジア経済研究所でも、『ベトナムのドイモイの新展開』（白石昌也・竹内郁雄編 研究双書 No.494 1999年）、『国際参入期のベトナム』（石田暁恵・五島文雄編 研究双書 No.540 2004年）、『移行期ベトナムの産業変容』（藤田麻衣編 研究双書 No.552 2006年）、『2010年に向けたベトナムの発展戦略』（坂田正三編 情勢分析レポート No.3 2006年）といったベトナムの政治・経済に関する研究書を刊行してきた。本書は、これら一連の研究成果を土台としてアジア経済研究所が2007～2008年度に実施した、「変容するベトナム経済主体の経営戦略」研究会の最終成果である。本書は、上述のアジア経済研究所の研究成果と同様、現地での聞き取りを通じた一次情報の収集と、ベトナム語のものを中心とした詳細な文献・データの分析を通じた研究結果の報告である。

本書の特徴は、ベトナムのマクロ経済の動向や産業競争力といった分野ではなく、企業や協同組合、自営業といった「経済主体」の変容にその考察の重心を置いた点である。これまでのベトナム経済研究では、ベトナムの経済主体はグローバル化の中で外資との競争に晒されながら国家依存から自立へともがく存在としてステレオタイプに語られがちであった。しかし近年では、外資と国内企業との戦略的な提携、国内企業同士の競争の激化と淘汰、新たな経営形態や業態の形成など、多様で柔軟な戦略で発展や生き残りを模索する様子がうかがえる。その結果、ベトナムの経済主体の間に多様化・階層化が起こりつつある。本書は、そのような経済主体の変容の様相とその背景に

ある制度・環境変化といった要因を分析することにより、ベトナム経済の現状を描き出すことをめざしている。

本研究会の実施にあたっては、国内およびベトナムにおいて数多くの方々にお世話になった。講師をお願いした東京大学社会科学研究所の丸川知雄教授からベトナム国有企業改革と工業化の展望に関して、東北大学大学院経済学研究科の川端望教授からベトナムの基幹産業の一つである鉄鋼業の発展に関して、それぞれ大変興味深い内容のお話をうかがった。ベトナム社会科学院ベトナム経済研究所副所長の Cu Chi Loi 氏とベトナム発展研究センター副所長の Vu Tuan Anh 氏には、委託調査の際にご尽力いただいた。これらの方々に改めて感謝の意を表したい。また、本書の審査過程では、所内検討者および外部評価者より多くの有益なコメントをいただいた。紙幅が限られているため、全てのお名前をあげることができないことは残念であるが、研究会実施および本書の出版にご協力をいただいた多くの方々に、この場を借りて御礼申し上げます。

2009年6月

編 者